

# ストラテジーに注目した会話授業の実践

ードラマ「スアン日本へ行く！」を使ってー

藤長かおる・土屋仁美・藤村春菜

## 1. はじめに

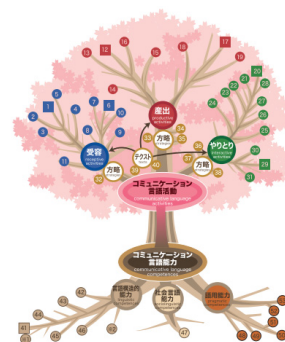
国際交流基金ベトナム日本文化交流センター（以下、JFVN）では、JF 日本語教育スタンダード<sup>(1)</sup>（以下、JF スタンダード）に基づいた日本語教育の発信を目的として、日本語のモデル講座や教え方講座を運営している。これまで JFVN で実施されたモデル講座は『まると 日本のことばと文化』<sup>(2)</sup>（以下、『まると』）を使ったコースが中心で、国際交流基金（以下、JF）によって開発されたそれ以外のリソースを利用したものはあまり行われてこなかった。

「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」<sup>(3)</sup>（以下、「ひきだすにほんご」）は、JF スタンダードの A2 から B1 レベル<sup>(4)</sup>を対象としたオンラインリソースで、メインコーナーであるドラマ「スアン日本へ行く！Xuan Tackles Japan!」（以下、「スアン日本へ行く」）は、日本のホテルで働くために来日したスアンが、仕事や生活の中で出会うさまざまなコミュニケーション上の課題をストラテジーを使って解決していくというストーリーになっている。主人公がベトナム人であることからベトナム人学習者の親近感を得やすく、ストーリーが魅力的である一方、シラバスの中心になっているストラテジーという概念とその有用性についてあまり理解が進んでいないという問題がある。そこで、この教材をベトナムの日本語教師に広く利用してもらうには、JFVN のモデル講座で使用し、その成果を発信していく必要があり、さらには、それが JF スタンダードの理解にもつながるとも考えた。

## 2. 初中級レベルの学習者に対するストラテジー指導

### 2.1 JF スタンダード準拠教材『まると』におけるストラテジー

JF スタンダードではストラテジーは「方略」と訳され、コミュニケーション言語活動の構成要素の一つとして位置づけられている。「JF スタンダードの木（国際交流基金 2017：10）」（図1）からもわかるように、「受容・産出・やりとりの枝の付け根にある Can-do で、言語活動を効果的に行うために言語能力をどのように活用したらよいか（国際交流基金 2017：15）」を示したものである。Common



European Framework of Reference for Languages: Learning, 図1 JF スタンダードの木

teaching, assessment (以下、CEFR) では “*in order to fulfil the demands of communication in context and successfully complete the task in question*” (コミュニケーション行動や課題を成功裏に納めるため) (Council of Europe, 2001: 57 訳は引用者による) に使用され “*Communication strategies should therefore not be viewed simply with a disability model*” (単に能力不足を補償するためのものではない: 同上) と説明されており、言語活動を「効果的に行う」ためという肯定的な面が注目される。ストラテジーは、関係するコミュニケーション言語活動によって、「受容」「産出」「やりとり」等に分類され<sup>(5)</sup>、熟達段階に応じて変化する。とくに、A2レベルの学習者が「自立した言語使用者 (Independent User)」(B1レベル)<sup>(6)</sup>になるには、自分と周囲のリソースを最大限に活用していく必要から、積極的にストラテジーを使用する必要があると考えられる (藤長他 2015)。

このような認識から、JF スタンダード準拠の『まると中級 (B1)』では、ストラテジーが学習項目としてコースデザインに組み込まれている。例えば、目標 Can-do が「やりとり」であれば、モデル会話の中で、話し手または聞き手がストラテジーを使用している箇所に注目させ、練習し、Can-do を達成する最終活動の中で使用できるようにするという学習デザインとなっている<sup>(7)</sup> (藤長他 2018)。

## 2.2 「スアン日本へ行く」におけるストラテジー

「スアン日本へ行く」において、ストラテジーは「コミュニケーションの目的をうまく達成するために、自分が使える能力や周りのリソースを活かす工夫 (菊岡他 2024: 21)」と定義されている。それは「コミュニケーション言語活動の目的を意識し、(筆者中略) 自分の持つ言語能力や一般的能力、周りのリソースをどう活用するか計画し、それを実行するという自立的な思考と行動 (菊岡他 2024: 22)」を指すものであり、「行動」だけではなく「思考」的側面を持つことが重要視されている。

「スアン日本へ行く」では、全24話 (各8分) の中でそれぞれ1つのストラテジーが扱われており<sup>(8)</sup>、毎回、主人公スアンが日本語のコミュニケーション課題に直面するが、影の声ともいえる「やんす」<sup>(9)</sup>というキャラクターの助けを得て、課題を達成していく。単にストーリーを楽しめるだけでなく、スアンとともに課題を乗り越えるための「工夫」を考え (「思考」)、その「工夫」(ストラテジー) により課題を達成する (「行動」) プロセスを疑似体験できるようになっている。

「スアン日本へ行く」はドラマ形式の映像教材であるため、さまざまな使い方が考えられる<sup>(10)</sup>。最も簡単な方法はドラマを見てスアンといっしょにストラテジーに気づくことであり、これは来日前の準備として効果的であろう。また、ストーリーそのものを楽しむという方法も考えられるし、ストラテジーを使った簡単な練習を取り入れることも考えられる。さらには、

『まるごと中級』のように、「話す活動」を最終目標として設定し、ストラテジーの有用性を実感させることもできるだろう。

### 3. モデル講座の計画

#### 3.1 モデル講座の設定

2章の分析を踏まえ、JFVNでは「スアン日本へ行く」を使用し、学習者に「今の自分の日本語を活かしながら、ストラテジーを使うことで、上手にコミュニケーションを続けることができる」ことに気づいてもらうことをねらいとした会話コースを実施することとした。

対象はベトナム人の一般成人で、日本語の運用力は、この教材の使用者として想定されている JF スタンドアードの A2 から B1 レベル程度である。実際にこのモデル講座を受講したのは 11 名で、内訳は社会人 10 名、日本語専攻の大学生 1 名である。授業は 1 回 90 分の対面形式で、全 6 回、授業実施期間は 2023 年 12 月 9 日から 2024 年 1 月 23 日である。

#### 3.2 コースデザイン

このコースでは、ドラマを通して学習者がストラテジーの有用性を認識するだけでなく、実際にストラテジーを使う機会がある「話す活動」を最終目標として設定した点が大きな特徴である。その際、学習者が訪日予定のある留学生や技能実習生ではないため、言語使用場面をベトナム国内として、目標 Can-do と具体的な活動を考えた（表 1 参照）。また、ストーリーの魅力を活かして楽しく学ぶという点も重視し、コース目標を以下のとおり設定した。

- ①ドラマ「スアン日本へ行く！」をみんなで楽しく見る。
- ②授業で見たドラマ、関係があるトピックについて自分が思ったこと、考えたことを日本語で話してみる。
- ③ストラテジーを使ってみる。

表 1 各話のストラテジーと話す Can-do と活動内容

	ドラマ タイトル	ストラテジー	ストラテジー 例	話す活動の Can-do	話す活動
1	第 1 話 「夢への第一歩」	質問をして相手に話してもらう	大宮ってどんなところですか	初めて会った人に自分から話しかけて、共通の話題を見つけて、ある程度会話を続けることができる。	イベントで知り合った日本人と、楽しく会話を続ける。
2	第 2 話「もう一度聞く勇氣」	効率的に聞き返す	502号 室 は 12時 に… なんです か	ベトナム語の方言について、例をあげながら、その特徴や北部表現との違いなどを簡単に説明できる。	ベトナムの方言について、日本人に簡単に説明する*
3	第 4 話「理想の部屋に住みたい」	思い出せないところを「なんとか」に置き換える	なんとか 棒	人から聞いた情報をもとに、旅行先でしたいことや食べたいものなどについて、具体的に話すことができる。	日本人から観光地の紹介を聞いて、そこでしてみたいことを話す。

4	第7話「話は終わっていないのに…」	「今考えている」ということを相手に伝える	えーと、そうですね…	食事中などに、職場の同僚などに質問されたとき、身近なことであれば、自分が言いたいことを伝えることができる。	昼休みの同僚との会話で、考える時間を作りながら雑談での質問に答える。
5	第8話「確認しながらのチャレンジ」	相手に確認しながら話す	今言ったこと、わかりますか？	自分の好きな映画作品（映画・ドラマ・アニメなど）について、好きな理由をある程度くわしく話すことができる。	友人と映画やアニメなどについて、好きな理由を話す。
6	第9話「「聞いているよ!」を伝えよう」	効果的にあいづちを打つ	へえ、そうなんですか	友人に、自分の最近の様子や出来事について、何があったか、どうだったかを、ある程度くわしく話すことができる。	友人と最近の出来事を話し、相手はあいづちを打ちながら聞く。

\*第2回についてはストラテジー活用ではなくドラマの内容に関連する活動

コースデザインで留意したのは、授業で扱うエピソードの選択と「話す活動」の具体的な内容である。全6回の授業で扱うエピソードは、そこで紹介されるストラテジーがベトナムにおける日本語使用場面でも活用できそうなことと、ドラマを個別に扱ってもストーリー理解の負担にならないことを条件にした。

「話す活動」の内容設定においては、対象となるストラテジーが使用されやすい場面を選ぶのはもちろんであるが、それに加えて、学習者にとって身近な場面や話題であるかどうかを重視した。

## 4. 授業の流れ

### 4.1 授業の構成

1回90分の授業は、①ドラマを見る、②ストラテジー、③話す活動の大きく3つの部分からなる（図2参照）。

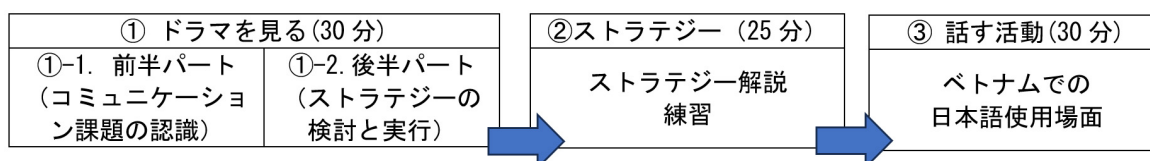


図2 授業の流れ

「①ドラマを見る」は、3.2で述べたコース目標のうち、「ドラマ『スアン日本へ行く!』をみんなで楽しく見る」に当たる部分で、前半パート（コミュニケーション課題の認識）と、後半パート（ストラテジーの検討と実行）に分けて見せることで、次の「②ストラテジー」につながるようにした。「②ストラテジー」の目標は、練習場面の中で「ストラテジーを使ってみる」ことで、毎回簡単な口頭練習を行った。「③話す活動」は「授業で見たドラマ、関係があるトピックについて自分が思ったこと、考えたことを日本語で話してみる」という目標を達成する最終活動で、ベトナムの日本語使用場面を想定したロールプレイや自由会話形式で進めた。

## 4.2 各段階の進め方の留意点

### 4.2.1 ドラマを見る

教師が説明することなく、ドラマそのものを楽しんでもらいながらストーリーが理解できるように、パリ日本文化会館での実践例<sup>(11)</sup>を参考にしながら「内容理解の質問」をより細かく設定した（表2参照）。

表2 ストーリーの内容理解の質問

回	ドラマタイトル	前半パート	後半パート
1	第1話「夢への第一歩」	①スアンは何のために日本へ来ましたか。 ②スアンを空港に迎えに来た人は、だれですか。 ③スアンたちはこれからどこへ行きますか。 ④どうして困っていましたか。 ⑤あなたがスアンだったらどうしますか。	⑥スアンはどうしましたか。
2	第2話「もう一度聞く勇氣」	①スアンの先輩の名前は、何ですか。 ②先輩は、どんな話し方をしていますか。 ③スアンは、どうして困っていましたか。 ④あなただったら、どうしますか。	⑤スアンはどうしましたか。
3	第4話「理想の部屋に住みたい」	①スアンは、どうしてさびしいと思いましたか。 ②太田さんは、どうしてスアンのうちに来ましたか。 ③スアンは、だれとどこへ行きましたか。 ④スアンがイメージしていた部屋は、どんな部屋ですか。 ⑤モニカさんの部屋はどんな部屋ですか。 ⑥お店で、スアンはどうして困っていますか。	⑦スアンはどうしましたか。
4	第7話「話は終わっていないのに…」	①スアンは太田さんと、どこに来ましたか。 ②キッチンカーの店長はだれですか。 ③スアンには、苦手な食べ物がありますか。 ④スアンは、どんな飲み物を注文しましたか。 ⑤スアンは困っていますか。 ⑥あなたがスアンだったら、どうしますか。	⑦スアンはどうしましたか。
5	第8話「確認しながらのチャレンジ」	①スアンと葵ちゃんはどこに来ましたか。 ②葵ちゃんはスアンと会ったとき、どうしてびっくりしましたか。 ③スアンはどうしてここに来てみたかったですか。 ④スアンは日本のアニメのどんなところが好きですか。 ⑤スアンは葵ちゃんと話しているとき、どうして困っていますか。	⑥さいご、葵ちゃんはスアンの言いたいことが分かりましたか。 ⑦葵ちゃんは、どうしてスアンの言いたいことが分かったのでしょうか。スアンは、葵ちゃんに伝えるためにどうしましたか。
6	第9話「『聞いているよ!』を伝えよう」	①スアンと葵ちゃんは、何に乗って山の上まで行きましたか。 ②葵ちゃんは、スアンと一緒に撮った写真を、このあとどうしますか。 ③スアンと葵ちゃんは、だれを見かけましたか。 ④葵ちゃんは好きな人がいますか。それはどんな人ですか。 ⑤どうして葵ちゃんは話をやめてしまいましたか。 スアンはどうすればよかったと思いますか。	⑥さいごに太田さんは「スアン、あなたは何も見ていない」と言いました。それはどうしてですか。 ⑦スアンは何を変えましたか。

ドラマ視聴では、「日本語字幕あり」と「ベトナム語字幕あり」の両方を用いることにした。まずドラマのタイトルを提示し、学習者に内容を予測させた後、ドラマの前半パート（スアン



がコミュニケーションにつまずくまで)の内容理解の質問を提示した。1回目はひらがな字幕で視聴した後、質問にそって学習者が理解した点を共有した。次に、1回目の視聴では理解できなかった部分を補うために、2回目はベトナム語字幕で視聴し質問の答えを確認した。

この段階で、学習者はコミュニケーション課題に直面したスアンの状況を掴み、「自分がスアンだったらどうするか」、課題を達成するための「工夫」を考える時間を設けた。そして、後半の質問を確認後、後半パートを視聴し、スアンの使ったストラテジーをグループやクラスで共有して、ベトナム語でのコミュニケーションとの違いなどについて話し合った。

#### 4.2.2 ストラテジー

ドラマの最後にある1分ほどのストラテジー解説(「本日のストラテジー」)を視聴し、スアンが利用したストラテジーを確認した。次に、シャドーイングや、ストラテジーを使う練習を行った。

#### 4.2.3 話す活動と活動のふり回り

授業のゴールに当たる「話す活動」では、ストラテジーが活かせるような場面を設定したが、ストラテジーを無理に使う必要はなく、Can-doの達成を優先した。授業の最後に、Can-do チェックシート

#04「理想の部屋に住みたい」	
Can-do 03	人から聞いた情報をもとに、旅行先でしたいことや食べたいものなどについて、具体的に話すことができる。
ストラテジー	名前が思い出せなくても、自分の言いたいものを相手に伝えることができる。
2023年12月19日 評価: ☆☆☆	
コメント	

図3 Can-do チェックシートの例

(図3)を使って、話す活動の達成と、ストラテジーの使用についてふり返る時間を設けた。

### 5. 授業の実践とふり回り

#### 5.1 第4話「理想の部屋に住みたい」のストラテジー指導と話す活動

ここでは、ストラテジーが最終目標の「話す活動」に活かされやすいという観点から、第4話を使用した授業例(3回目の授業)を取り上げて説明する。第4話に挿入されているストラテジーは「思い出せないところを『なんとか』に置き換える」である。「①ドラマを見る」の前半パートは、来日後間もないスアンが友人モニカの部屋で、部屋のデコレーションを見ながら、100円ショップで買う物について話している。しかし、店に来たスアンはほしい物(つっぱり棒)の名前が思い出せず、買うのを諦めようとする。後半パートを見る前に「あなたがスアンだったらどうしますか」と問いかけたが、「スマホで調べて写真を見せる」「簡単な言葉でその物の特徴を説明する」という工夫が学習者から示された。後半パートの視聴で、スアンがつっぱり棒を「なんとか棒」と言うことでコミュニケーション課題を解決したことに学習者が

気づいた後、「写真を見せる」というストラテジーと比べてこのストラテジーが便利なところ  
は何か、ベトナム語の場合「なんとか」に当たる表現があるかと問いかけることによって、ス  
トラテジー理解の深化をうながした。

「②ストラテジー」の段階では、このストラテジーが場所（例：なんとか大学）や人の名前  
（例：田中なんとかさん）にも使えることを確認した後、ドラマと同じ買い物場面で「なんと  
か」を使う練習を行った

（図4）。100円ショップに  
ありそうな有孔ボードとS  
字フックを挙げ、わから  
ない部分を「なんとか」を  
使って言い、相手に教えて

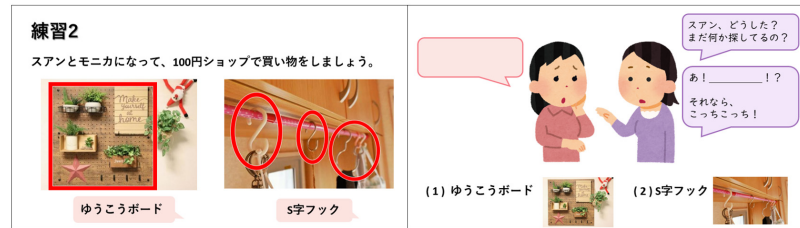


図4 「なんとか」のストラテジー練習

もらおうという簡単なロールプレイである。

「③話す活動」のCan-doは「人から聞いた情報をもとに、旅行先でしたいことや食べたい  
ものなどについて、具体的に話すことができる」である。「なんとか」でわからない部分を置  
き換えるストラテジーはことばが思い出せないときに使うが、これが機能するには相手との共  
通認識が前提になる。そのため、授業では、講師から日本の観光地の紹介を聞き、学習者間に  
共通認識を形成した後、「そこへ旅行に行くなら何をしたいか」をグループで話し合った。学  
習者は日本語で紹介された観光地の情報をすべて覚えているとは限らないため、「なんとか」  
が使われることを期待した。実際に、グループの会話では「なんとかたまごを食べたいです」  
「ああ、黒たまご！」や、「なんとかプールに行きたいです」「ワインプールですね」といった  
やり取りが見られた。また、活動のふり返りでも、ことばを少し忘れても「なんとか」を使え  
ば話を続けられたという声が挙がった。ことばが思い出せないというのはこのレベルの学習者  
によくある問題なので、「なんとか」が使いやすいストラテジーであることを認識したのでろ  
う。

## 5.2 実践のふり返りと改善点

到達目標とした「話す活動」は、ドラマで学んだストラテジーを活かしつつ楽しく会話をす  
ることがねらいであったが、意図した通りに活動が進まないこともあった。

4回目の授業（第7話）では、「今考えている」ことを伝えるストラテジー（えーと、そう  
ですね…）を使いそうな場面として食事の同僚との雑談場面を設定したが、グループでの自  
由会話ではストラテジーの使用がほとんど見られなかった。「今考えている」ことを伝える必  
要があるのは、初対面の人やまだあまり親しくない人と話すときなど緊張感のある場面で、学  
習者にとって少し考える時間が必要になるような質問を受けたときである。この点を踏まえ、

場面設定をもっと考慮すべきだった。

5回目の授業（第8話）で扱った戦略は「相手に確認しながら話す」（今言ったこと、わかりますか）だが、相手に自分の意図が伝わっていないことを認識した場合、「確認する」で終わるのではなく「言い換える」という次のステップが必要になる（図5）。



図5 ストラテジーの使用手順

授業後のふり返りでは、日本語に自信のない学習者から「確認する」戦略は便利だが「言い換える」のは「まだわかりやすく伝えることができない」というコメントもあった。自分の話が相手に伝わらないことがわかったときに、ほかの日本語で説明する戦略は「スアン日本へ行く」の第14話で別に取り上げられているが、「話す活動」を目標とした場合、戦略によっては組み合わせた方が効果的だと考えられる。

## 6. 評価

### 6.1 学習者の戦略についての認識

学習者の戦略についての意識を把握するために、コース終了時に、授業で扱った戦略のうち特に興味を持った・役に立つと感じた戦略と、その理由について学習者に尋ねた（表3参照）<sup>(12)</sup>。

表3 学習者の戦略についての意識

戦略	回答数	理由
1. 質問をして相手に話してもらう（第1話）	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が会話で困ることに関連している。</li> <li>・特に初対面のときは相手に質問するのは難しく、関係や共通の繋がりを見つけるには、ある程度の理解が必要になる。授業では、質問がしやすくお互いの共通点を見つける方法を示した。</li> <li>・実際に応用できると感じた。</li> </ul>
2. 効率的に聞き返す（第2話）	1	仕事では業務効率を向上させるため、お互いに円滑なコミュニケーションが非常に重要だと思う。この戦略によって、現在私の業務で、適切なタイミングと方法で聞き返すことについての問題が解決できるようになった。
3. 思い出せないところを「なんとか」に置き換える（第4話）	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番便利だと思う。「なんとか」を知る前は、思い出せないところは何も言わなかった。</li> <li>・外国語を学習する時は一部を忘れがちなので、重要なことだと考える。</li> </ul>
4. 「今考えている」ということを相手に伝える（第7話）	0	
5. 相手に確認しながら話す（第8話）	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は時々言葉が足りないので、話がわかりにくいかもしれない。だから「今言ったことわかりますか」と確認すると便利だと思う。相手がわからなければ「言いかえたほうがいい」とわかって、もっとがんばって話そうと思った。</li> <li>・日本語はまだうまく話せないで、言ったことばがわかりにくいところがあるかもしれない。だから相手に確認したほうがいいと思う。</li> </ul>



		・相手が理解できるように話を進め、表現を変えるのは効果的な方法だと思う。
6. 効果的にあいづちを打つ (第9話)	2	・話すのが好き。だから会話に役立つと思ったのはストラテジー。 ・会話の時、相手の話を聞くことは重要。それはお互いに尊重する意志を示す。相手に対して適切なあいづちを使えば、自分の興味を示すことができる。逆に沈黙し、反応がないまま聞くと、相手は「興味を持ってもらえていないのかな?」「続けて話すべきかどうか」と考えると思う。

コメントから、ストラテジーを選んだ理由が具体的なことに気づく。たとえば「初対面ときは相手に質問するのは難しく、関係や共通の繋がりを見つけるには、ある程度の理解が必要になる。授業では、質問がしやすくお互いの共通点を見つける方法を示した」「このストラテジーによって、現在私の業務で、適切なタイミングと方法で聞き返すことについての問題が解決できるようになった」等、自分の経験や課題意識に基づいてストラテジーの有用性が理解されていることがわかる。また、「相手が理解できるように話を進め、表現を変えるのは効果的な方法だと思う」「会話の時、相手の話を聞くことは（中略）お互いに尊重する意志を示す。相手に対して適切なあいづちを使えば、自分の興味を示すことができる」というコメントには、コミュニケーションを円滑に進めるための相手への配慮が読み取れる。このように、学習者それぞれが自分の言語使用環境と関係づけてストラテジーを理解していることが確認できた。

学習者の中には、日本語能力試験（以下、JLPT）のN3やN2を取得して知識面では自信があっても会話に自信がない<sup>(13)</sup>ので本コース受講を希望したと事前面談で話した者もいた。そうした学習者が回を重ねるごとに自信を持って授業でのグループディスカッションに参加する様子も観察できた。

## 6.2 コース全体の評価

コースデザイン全体について評価するために、コースについての学習者の満足度<sup>(14)</sup>を表4に示す。

表4 コースについての満足度

満足度が高い学習者のコメント（自由記述） <sup>(15)</sup> には、「こ	5 とても満足	4 満足	3 どちらでもない	2 やや不満	1 不満	平均
	8 (72.7%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	0	0	4.55

のようなコースはまだ少ないと思います」「もしおなじコースがあったら、またさんかしたいです」「日本人と会話するときの新しい反応の仕方を学ぶ機会があった。そのため、学習者は自信を持って話す機会を得て日本語の会話力が向上できる（筆者和訳）」「たのしくてよくにたってよかったです」「いろいろなストラテジーを勉強になりました」と、ストラテジーに注目した点を肯定的にとらえていることがわかる。また「コースの終了後、自信を持って日本語を話せるようになった。ドラマと先生が教えてくれた知識を実際に応用することができた（筆

者和訳)」「私にとって、この授業は効果があります。日本人と話しできます。もうきんちょうくないです」との記述からも、「今の自分の日本語を活かしながら、ストラテジーを使うことで、上手にコミュニケーションを続けることができる」という本コースのねらいが達成できたと考えられる。

一方、『まるごと中級』コースを終えた学習者<sup>(16)</sup>からは、「私はもう『まるごと中級1』を勉強したから、このコースがちょっと簡単だと思います」「コース期間は短く、またレベルは予想よりも低かった (筆者和訳)」というコメントがあったことから、『まるごと中級』既習者が対象の場合は、「スアン日本へ行く」を用いたストラテジー指導は復習程度として、課題レベルを少し上げた「話す活動」を中心にする必要があると考えられる。また、『まるごと中級2』コースの実施を希望する学習者からは『『まるごと』コースはそのまま維持するべきだと考える<sup>(17)</sup>。このコースは『まるごと』コースの補完的な役割を果たすには良いが、単独で提供されるとあまり役に立たないと思う (筆者和訳)」という意見もあった。このコメントを肯定的にとらえれば、『まるごと中級』コースにおいて、ストラテジー指導と関係づけて、副教材的にドラマを活用することが考えられるだろう。

## 7. おわりに

JFVN のモデル講座で「スアン日本へ行く」を使用して得られた気づきをまとめておく。

- ①「スアン日本へ行く」は動画なのでストラテジーに気づかせやすいという点で優れている。スアンとともに課題を乗り越えるための「工夫」を考えることによって、ストラテジーの持つ「思考」の側面を引き出すことができた。この経験はとくに「自立した言語使用者 (Independent User)」(B1レベル) になっていくために必須だと考えられる。
- ②言語知識中心に学んできた学習者の場合、会話力の向上につながり、コミュニケーションの自信を育てることができた。このような活動は、言語知識中心のコースの場合は、初級段階からときどき取り入れるとよいだろう。
- ③ストーリーと同じ場面を利用して、ストラテジーの簡単な練習を入れるのは効果的だった。また、練習も考えやすく時間もかからないので、授業に取り入れやすいと考えられる。
- ④コースデザインで「話す活動」を到達目標とする場合、選択できるストラテジーの種類が限られる。また、「話す活動」によっては複数のストラテジーを組み合わせで指導した方がよい場合もある。なによりも、学習者がそのストラテジーを必要とするような場面設定かどうかを十分に検討する必要がある。
- ⑤『まるごと中級』既習者対象の場合、ストラテジー指導は復習程度として、課題レベルを上げた「話す活動」を中心にする必要がある。また『まるごと中級』を使用したコースの場合、「スアン日本へ行く」を並行して用いることはストラテジー指導上、効果的だと推察される。

以上、今回の実践で得られた知見をベトナムの日本語教育の現場に還元し、現場の教師とともに授業での工夫を考えていくことを今後の課題としたい。

〔注〕

- <sup>(1)</sup> コースデザイン、授業設計、評価を考えるための枠組として国際交流基金によって開発された。課題遂行能力と異文化理解能力を育成し、日本語を通じた相互理解を目指している。CEFR: Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment の考え方にに基づき、日本語の熟達度を CEFR の 6 レベル (A1～C2) に準じて知ることができる。国際交流基金 (2017) および「JF 日本語教育スタンダード」<<https://www.jfstandard.jp/summary/ja/render.do>> (2024年11月24日) 参照。
- <sup>(2)</sup> JF スタンダードの考え方にに基づき、課題遂行能力と異文化理解能力を養い、相互理解につながる日本語教育を実現することを目指して作られたコースブック。入門 (A1)、初級 1、2 (A2)、初中級 (A2/B1)、中級 1、2 (B1) の 4 レベルが出版されている。「まるごとサイト」<<https://marugoto.jpf.go.jp>> (2024年11月24日) の教師用ページ、『まるごと』の理念と特徴を参照。
- <sup>(3)</sup> 国際交流基金日本語国際センターと NHK エデュケーショナルが共同で制作した日本語学習番組。ドラマ「スアン 日本へ行く! Xuan Tackles Japan!」、ミニコーナー「気持ち伝わるオノマトペ ONOMATOPOEIA -Share Feelings-」、ドキュメンタリー「津々浦々日本のセンパイ Welcome to My Japan!」の 3 コーナーから構成される。2022年 2 月より NHK ワールド JAPAN で放送が開始され、2023 年 3 月に「ひきだすにほんご Activate Your Japanese! コンテンツライブラリー」<<https://www.hikidasu.jpf.go.jp/>> (2024 年 8 月 24 日) が公開され、コーナーごとのコンテンツ視聴が可能となった。
- <sup>(4)</sup> CEFR の「全体的な尺度」によれば、自分に直接関係のある身近な領域での言語使用に限られる「基礎段階の言語使用者 (Basic User)」(A2 レベル) に対して、「自立した言語使用者 (Independent User)」(B1 レベル) になると、「仕事」「学校」「娯楽」等で普段出合う身近な話題や、そのことばが話されている地域を旅行するときに遭遇する可能性のある「たいていの事態に対処することができる」ことが期待される。「ひきだすにほんご」では「A2 から B1 レベルへの橋渡し (菊岡他 2024: 23)」的役割を果たすことが重視されている。
- <sup>(5)</sup> CEFR では、ストラテジーはコミュニケーション言語活動に関する Pre-planning (事前計画)、Execution (実行)、Monitoring (モニタリング)、Repair Action (修正行動) の段階に分けて考えられる (Council of Europe, 2001: 57 訳語は吉島 2008 による)。
- <sup>(6)</sup> 注 4 に記したように、B1 レベルでは扱える話題が広がることに加え、想定外の事態に対処することも求められる。
- <sup>(7)</sup> 例えば『まるごと 中級 2』トピック 3 「健康的な生活」の PART 2 「会話する」では、Can-do 「健康法などについて、自分の考えを述べたり、相手にアドバイスしたりできる」を目標として、モデル会話の中に「有なんとか運動…」 「ああ、有酸素運動? 」というやり取りを入れ、「思い出せないことばを不完全に言って、聞き手に補ってもらおう」というストラテジーを提示している。
- <sup>(8)</sup> 採用されているストラテジーは CEFR の補遺版 Council of Europe (2020) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment Companion Volume* (以下、CEFR CV) に基づき、産出 6、やりとり 14、仲介 4 に分類される (菊岡他 2024: 25)。CEFR CV<<https://rm.coe.int/16809ea0d4>> (2024年11月24日) 3.1.2 (受容) 3.2.2 (産出)、3.3.2 (やりとり)、3.4.2 (仲介) を参照。
- <sup>(9)</sup> 「やんす」は、スアンと実践を共有する「伴走者」の役割を担う (菊岡 2024: 27) と説明されている。
- <sup>(10)</sup> ケルン日本文化会館、トロント日本文化センター主催の教師研修会、パリ日本文化会館、ベトナムの KAIZEN 吉田スクールなどでの「ひきだすにほんご」の使用例が、上記コンテンツライブラリーに掲載されている。
- <sup>(11)</sup> パリ日本文化会館での実践例「いつものクラスにちょこっと『スアン』!」は上記コンテンツライブラリーで閲覧可能。また、パリ日本文化会館の担当者からより詳しい情報を得るために、インタビューを行った。
- <sup>(12)</sup> 表中の理由は、日本語またはベトナム語で書いてもらったものを筆者が翻訳または編集したものである。
- <sup>(13)</sup> 日本語能力試験サイト<<https://www.jlpt.jp>> (2024年11月24日) の「認定の目安」によれば、N3 レベルでは「日常的な場面で使われる日本語」を、N2 レベルでは「より幅広い場面で使われる日本語」

をある程度理解することができる。会話試験がないことから、ベトナムの N3、N2 合格者には会話に自信がない者が多い。

<sup>(14)</sup> コース終了時に行ったアンケートからの「総合的に見て、コースの内容に満足しましたか」の回答結果。

<sup>(15)</sup> 回答は日本語またはベトナム語で書いてもらった。特に断りのないものは日本語の原文ママ、(筆者和訳) としたものはベトナム語から筆者が和訳したものである。

<sup>(16)</sup> 学習者11名のうち、過去に JFVN で実施した『まるごと中級1』コースの修了生が6名含まれている。

<sup>(17)</sup> JFVN では、2023年9月の『まるごと中級1』コース終了以来、学習者対象の『まるごと』講座を実施していない。しかし修了生からは、『まるごと中級2』コースの実施(学習者対象講座の維持)を希望する声もあった。

#### 〔参考文献〕

菊岡由夏・石山友之・本田雅美 (2024) 「ストラテジーで学ぶ日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」の開発とその反響」『国際交流基金日本語教育論集』20、19-35

国際交流基金 (2017) 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』、国際交流基金

藤長かおる・磯村一弘 (2018) 「課題遂行を出発点とした学習デザインー『まるごと 日本のことばと文化』中級(B1)の開発をめぐる」『国際交流基金日本語教育紀要』14、67-82

藤長かおる・斎藤誠 (2015) 「B1レベルの対話能力養成のためのストラテジー指導ー『まるごと中級(B1)』の開発をめぐる」『ヨーロッパ日本語教育』20、183-188

Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版 吉島茂・大橋理枝(訳、編)、朝日出版社

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press. <<https://rm.coe.int/1680459f97>> (2024年11月24日)

■執筆者

藤 長 かおる	国際交流基金ベトナム日本文化交流センター日本語上級専門家
土 屋 仁 美	国際交流基金ベトナム日本文化交流センター日本語専門家
藤 村 春 菜	国際交流基金ベトナム日本文化交流センター日本語指導助手